

佐渡地域医療・介護・福祉・提供体制協議会

令和元年度 第1回 通常総会 議事録

1 開催日時及び場所 令和元年7月4日(木) 午後2時
新潟県厚生連佐渡総合病院 2階 講堂

2 会員総数、出席者数及び出席者氏名

(1) 会員総数 39名

(2) 出席者数 26名

(会員名)

一般社団法人 佐渡医師会	会 長	中山 秀英
新潟県厚生農業協同組合連合会 佐渡総合病院	病院長	佐藤 賢治
新潟県厚生農業協同組合連合会 羽茂病院	病院長	永田 大志 (代理)
新潟県厚生農業協同組合連合会 真野みずほ病院	病院長職務代行	平野 ゆかり (代理)
佐渡市立両津病院	院 長	石塚 修 (代理)
佐渡市立相川病院	院 長	吉井 章
一般社団法人 佐渡歯科医師会	会 長	児玉 信彦 (代理)
佐渡薬剤師会	会 長	金子 正規
公益社団法人 新潟県看護協会 佐渡支部	佐渡支部長	渡辺 桂子
新潟県リハビリテーション専門職協議会 佐渡支部	理学療法士	金子 義弘
社会福祉法人 佐渡市社会福祉協議会	会 長	和田 幸雄
社会福祉法人 佐渡寿福祉会	理事長	山本 充彦
社会福祉法人 大佐渡福祉会	理事長	清水 紀治
社会福祉法人 愛宕福祉会 特別養護老人ホーム新穂愛宕の園	施設長	伊澤 宏二
社会福祉法人 佐渡ふれあい福祉会	理事長	末武 雅之 (代理)
社会福祉法人 庄やの里 介護老人保健施設 親里	施設長	小田 隆晴
どんぐり訪問看護ステーション	所 長	後藤 和美
有限会社 ケアプラン事務所きくち	管理者	菊池 博美
合同会社 一期一会 居宅介護支援事業所コンパス	管理者	安藤 篤弘
公益社団法人 新潟県介護福祉士会	副会長	中村 和弘
社会福祉法人 佐渡福祉会	理事長	弾正 校一
社会福祉法人 佐渡国仲福祉会	理事長	本間 攻
社会福祉法人 とき福祉会	理事長	末武 正義

社会福祉法人 しあわせ福祉会
新潟県佐渡地域振興局
佐渡市

理事長 佐藤 美恵子
地域振興局長 樺澤 尚
市長 三浦 基裕

(3) 欠席者数 13名

(会員名)

社会福祉法人 小佐渡福祉会	特別養護老人ホームはもちの里	園長	川口 武彦
社会福祉法人 佐渡前浜福祉会	特別養護老人ホームスマイル赤泊	施設長	永井 恭子
社会福祉法人 よつば福祉会		理事長	山下 峰生
新潟県厚生農業協同組合連合会	介護老人保健施設さど	施設長	土田 勲
医療法人 愛広会	相川愛広苑	施設長	冨崎 安夫
株式会社 佐渡厚生会	十季のあかり佐渡	代表取締役	門口 茂
株式会社 老介護とき		代表取締役	明畑 章
ソクイ佐渡りょうつ		所長	後藤 正則
株式会社 クローバー佐渡		代表取締役	山下 峰生
合同会社 和 ケアプランかず		管理者	木下 直美
リハビリ特化型デイサービスみーお		管理者	本間 崇史
ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟		代表理事	高見 優
社会福祉士会 佐渡地区		社会福祉士	本間 奈美

3 審議事項及び議事の経過の概要及び議決結果、議事録署名人の選任に関する事項

(1) 開会

事務局が開会を宣言した。

(2) 開会挨拶

中山会長が挨拶をした。

(3) 議長及び議事録署名人選出

事務局提案により議長及び議事録署名人が以下のとおり選出された。

議長	中山 秀英
議事録署名人	中山 秀英
	吉井 章
	山本 充彦

(4) 議題

議長は議案第1号を上程した。

- ① 議案第1号 佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会 平成30年度 実績報告（案）
について

事務局が、資料に基づき議案第1号を説明した。

議長が意見・質問を求めると、特に発言がないことから承認の可否を諮り議決承認した。

- ② 議案第2号 佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会 令和元年度 事業計画（案）
について

事務局および各作業部会代表（担当理事、部会リーダーまたは部会事務局）が、資料に基づき議案第2号を説明した。

議長が意見・質問を求めると、特に発言がないことから承認の可否を諮り議決承認した。

- ③ 議案第3号 佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会 規約の一部改正について（案）
事務局が、資料に基づき議案第3号を説明した。

議長が意見・質問を求めると、特に発言がないことから承認の可否を諮り議決承認した。

- ④ その他

議長がその他全体を通して意見・質問を求めると、特にないことから議事の終了を告げ、議長は退任した。

(5) その他

佐渡総合病院 佐藤病院長より資料に基づき「超高齢社会における社会保障「課題と対策」の整理」として発言があった。

事務局より会員への質問等を求めた。

小田施設長： この医療・福祉・介護の連携を上手くするには、MSWを上手く使わないと駄目だと思います。MSWが増えて来ているが、これは病院の収益にはならない。ただ地域の医療・介護・福祉の連携を取るにはMSWを活かす。いない病院はそれが看護師・医師の負担になっている。だから前の病院にいるときに地域医療連携室を作って、どんどんMSWを雇いました。最初は非常に経営が悪かったです、医師の残業や看護師の過酷な勤務が取れるようになりました。こういうMSWを活用するのも佐渡の医療者のこれからの負担を取るようなものになるのではないかと考えています。

佐藤病院長： おっしゃる通りMSWはもっと欲しいところですし、お金にならないので問題は問題ですが、それでも佐渡全体の事を考えると必要だと思います。

小田施設長： MSW は情報提供書を書いてくれるので、医師が書く必要がないのです。ところが医師の情報提供書が来るまでもの凄く時間が掛かるとか、それで病院の回転も停滞するわけで、全部 MSW にやらせてよろしいのです。ひまわりネットがあるからデータを付けて、「お願いします。」という具合に出来るだけ回転を良くしていただくと、病院の収益は上がっていくのではないかと思います。

佐藤病院長： 書類についてはクラークが居ますのでかなり対応が来ていますが、ケースワーカーについては全く少ないのは事実です。何故少ないかという来ないのです。リハビリも薬剤師もそうですが、常に病院としては募集を掛けていて、そもそも厚生連全体で人材把握が難しい状態で、尚且つ抱えたとしても佐渡は行きたくないとなります。

小田施設長： MSW は給料もあまり高くなく経営にも寄与しないものだから、なかなか就職口が無いということも聞いています。ただ新潟の方では 300 床位の病院に 8 人も 9 人もいて、もの凄く回転良くして経営が良くなっている病院もあるとは聞いています。

佐藤病院長： ケースワーカーがいると非常に優良なのは分かっているのですが、佐渡のハンディキャップは大きいです。はっきり言って佐渡だから来ないのです。それは医者も看護師もそうです。だから「佐渡は他と違う。」ということを見せないと人は集まらない。ここをやりたい。

小田施設長： ですので、これから人材育成をする場合には「どうぞ MSW になっていただいて、佐渡で活躍してください。」というようなことも、協議会の研修会等で言っていただきたいと思います。

事務局より資料に基づき「作業部会等への職員参加協力について」および協議会ポスターの掲示について説明した。

事務局より令和元年度 第 2 回通常総会について 11 月 7 日に開催することをお知らせした。

(6) 閉会挨拶

清水副会長が挨拶をした。

事務局が、午後 3 時 35 分、佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会 令和元年度 第 1 回 通常総会の閉会を宣言した。

以上の顛末に相違のないことを認め、押印する。

令和元年7月4日

中山 秀英



吉井 章



山本 充彦

